

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



合田 直弘

今年で246回目となるG1英ダービー(芝12F6y、エプソムダウンズ)の開催が、6月7日に迫っている。ここで、5月3日に行われたG1英二千ギニー(芝8F、ユーマーケット)に続く2冠を目指す、ゴドルフィンのルーリングコート(牡3、父ジャスティファイ)が、今週のこのコラムの主役だ。

5月最初の週末、グッドチア(牝3、父メダグリアドーロ)で2日のG1ケンタッキー大賞典(芝8F)、ルーリングコートで3日のG1英二千ギニー、ソヴリンティ(牡3、父イントゥミスチフ)で3日のG1ケンタッキー大賞典(芝10F)、デザートフラワー(牝3、父ナイトオヴサンダード)で4日のG1英千ギニー(芝8F)を制し、3日間で英米3歳クラシックを4勝するという金字塔を打ち立てたのがゴドル

フィンドだ。

このうち、英國クラシックを制した2頭を管理しているのが、ゴドルフィンの主戦厩舎を預かるチャーリー・アップルビー調教師である。一千ギニー・千ギニーの同一年制覇は、67年に達成したノエル・マーレス、05年、12年、17年、19年の4度にわたりて達成したエイダン・オブライエンに続いて、第2次大戦以降では3人目という快挙だった。

英米クラシック3冠初戦を総なめにした4頭のうち、グッドチア、ソヴリンティ

デザートフラワーはゴドルフィンによる自家生産馬だが、英二千ギニーを制したルーリングコートだけは、市場での購買馬である。

チャーチルダウンズのG3ミントジュレップH(芝8.5F)3着など2重賞で入着したイーチャージオヴミーの3番仔として、米国で生まれたのがルーリングコートだ。背景に持つのは歐州血統で、母の全兄にG1レーシングポストトロフィー(芝8F)2着など4重賞で入着したヨハニッシュトラウス、母の半弟にG1クリティリウムドサンクルー(芝2000m)3着など3重賞で入着したミシカルがいて、4代母がG2チャイルドS(芝8F)を制した他、G1コロネーションS(芝7F213Y)2着などの成績を残したインチマリンというファミリーの出身だ。

オズズ5・5倍の2番人気に推されたルーリングコートは、大外枠から出て馬群をスタンド寄り中団を追走。残り500m付近から鞍上のウイリアム・ビュイックが仕掛けると鋭く反応し、残り350mで先頭へ。ゴール前で、1番人気(2.875倍)に推されていたフィールドオヴゴールド(牡3、父キングマン)が強襲したが、ルーリングコートがこれを1/2馬身退けて優勝を飾った。

7日のG1英ダービーはグリーンチャネルで生中継される予定。12年のキャメロット以来となる同馬の2冠制覇がなるかどうか、日本の皆様もぜひご注目いただきたい。

なる230万ユーロ(当時のレートで約3億846万円)でゴドルフィンに購買された。

デビューは2歳7月で、サンダウンのメイドン(芝7F)を制し緒戦勝ち。続いて出走したのがヨークのG3エイコムS(芝7F)で、ここは勝ち馬ザライオンインウインターニーに2.4馬身差及ばぬ3着に敗れ、2戦1勝の成績で2歳シーズンを終えている。

今季初戦となつたのが、3月1日にドバイのメイダンで行われたLRジュメイラ二千ギニー(芝1600m)で、ここを6馬身差で快勝。その後に臨んだのが二千ギニーだった。

オズズ5・5倍の2番人気に推されたルーリングコートは、大外枠から出て馬群をスタンド寄り中団を追走。残り500m付近から鞍上のウイリアム・ビュイックが仕掛けたと鋭く反応し、残り350mで先頭へ。ゴール前で、1番人気(2.875倍)に推されていたフィールドオヴゴールド(牡3、父キングマン)が強襲したが、ルーリングコートがこれを1/2馬身退けて優勝を飾った。